子供の未来応援基金第２回未来応援ネットワーク事業

「外国にルーツをもつ子供への学習支援地域ネットワーク事業」報告書

2019 年 3 月
西淀川インターナショナルコミュニティー

子供の未来応援国民運動 子供の未来応援基金の支援を受け実施しています

はじめに

大阪市西淀川区の出来島・福地区にはフィリピンや中南米出身者が多く暮らし、子どものいる世帯が 100 世帯以上あり、小中学生の各学年に５～7 人が在籍しています。外国人家庭の子ども特有の不十分な日本語習得状態に由来する教科学習理解の遅れや生活習慣の違いに加え、学校以外の学習機会が非常に少なく、教科や日本語習得が十分でないまま社会に出るため、貧困の連鎖に陥りやすい課題が子どもたちに大きくのしかかっています。

当団体では、課題解決に向けた学習支援教室を 2016 年から開設しています。また、中学校での学習支援教室や外国人向け進学塾も地域で別途開設されるようになりましたが、子どもの状況を地域で包括的に把握することが困難な問題がありました。その解決のために、活動や情報の共有を通じて地域の各支援活動が連携することで、対象となる子どもの教科や日本語の学習支援を一層充実させ、将来の貧困の連鎖をくい止めることを目的として当事業を実施しました。

当事業報告書により、支援活動への理解が深まり、また他地域での同様な活動の参考となることで、地域の多文化共生実現に向けた一助となることを期待しています。

2019 年 3 月
西淀川インターナショナルコミュニティー　代表
中村満寿央

目次

１　事業の背景
１－１　西淀川区の外国人居住状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
１－２　西淀川区における外国人支援活動・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

２　事業の概要
２－１　事業の目的、数値目標、期待される効果・・・・・・・・・・・・・　４
２－２　事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

３　事業の実施
３－１　学習支援教室「きらきら」の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
３－２　外国人家庭への巡回訪問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12
３－３　地域との交流促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14
３－４　情報ネットワークの構築・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17

４　事業の成果と評価
４－１　事業の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
４－２　事業の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

参考資料
西淀川区の外国にルーツをもつ子ども向け学習支援教室ガイド・・・・・・　23

１　事業の背景

１－１　西淀川区の外国人居住状況

当事業の実施地域である大阪市西淀川区は淀川の河口に位置し、兵庫県尼崎市と隣接する工業地帯である。主に派遣会社を通じて区内の食品加工工場等に勤務する外国人が多く居住している（区人口 97,510 人、外国人人口 3,880 人、比率 3.98%、H30 年 12 月末現在、大阪市市民局）。

ブラジル、ペルーといった中南米出身者が多く、大阪市内のブラジル人人口の 20%、ペルー人人口の 33%が西淀川区に集中している特色がある。また、フィリピン人も多く在住しており、区別でフィリピン人人口が第 3 位である。また、大阪府で最大のイスラム寺院である「大阪モスク」が区内にあり、イスラム圏の外国人の集住がある。

図表１－１　大阪市外国人住民国籍別区別人員数

平成30年(2018)年12月末日現在　（人）

	韓国・朝鮮	中国	ベトナム	フィリピン	ネパール	米国	インドネシア	タイ	ブラジル	インド	英国	ペルー	その他	合 計
北　区	1,865	2,188	217	146	103	**157**	66	**131**	30	**91**	**51**	14	409	5,468
都島区	1,159	1,123	297	97	60	66	82	51	22	24	10	1	142	3,134
福島区	631	404	59	67	14	71	5	27	8	32	15	14	114	1,461
此花区	694	563	429	107	36	33	9	26	16	15	11	12	87	2,038
中央区	2,794	**3,578**	301	**498**	144	**130**	61	**149**	**92**	**110**	**64**	19	476	8,416
西　区	1,240	2,160	275	74	137	116	44	65	23	33	40	6	422	4,635
港　区	773	1,132	323	184	68	100	16	15	18	20	45	6	250	2,950
大正区	544	404	299	76	64	5	18	14	57	3	4	8	60	1,556
天王寺区	2,423	1,527	254	54	18	80	**118**	21	19	21	27	7	113	4,682
浪速区	2,193	**4,222**	**1,235**	226	79	**129**	66	78	52	27	**67**	12	430	**8,816**
西淀川区	1,463	708	584	**290**	108	21	83	16	**192**	14	17	**160**	224	3,880
淀川区	2,380	2,510	744	269	**155**	93	46	**82**	34	**66**	46	28	348	6,801
東淀川区	2,588	2,732	713	200	**154**	75	51	77	24	26	25	11	310	6,986
東成区	**5,055**	1,244	548	98	37	51	83	14	12	42	17	13	127	7,341
生野区	**21,989**	**2,858**	**2,038**	138	**167**	86	58	37	26	26	19	14	351	**27,807**
旭　区	1,135	416	280	57	30	28	**129**	66	59	9	7	2	41	2,259
城東区	2,523	1,766	305	172	41	72	26	44	32	19	33	5	294	5,332
鶴見区	1,121	525	121	61	23	21	39	14	6	0	8	2	61	2,002
阿倍野区	1,166	999	447	40	54	77	**114**	17	7	4	20	2	90	3,037
住之江区	1,284	1,255	377	210	68	27	41	28	**72**	6	3	**46**	219	3,636
住吉区	1,847	1,379	407	147	96	61	23	45	36	20	21	16	267	4,365
東住吉区	1,701	1,085	270	144	24	44	41	31	11	5	15	7	123	3,501
平野区	**4,108**	2,413	978	281	91	22	73	53	46	1	10	**60**	178	8,314
西成区	3,919	2,356	**1,867**	**292**	106	35	58	36	43	19	21	13	285	**9,050**
計	66,595	39,547	13,368	3,928	1,877	1,600	1,350	1,137	937	633	596	478	5,421	137,467

大阪市市民局調べ　　国籍別人数上位３区網掛け

[大阪市：大阪市の外国人住民数等統計のページ](https://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000431477.html)より

「特定非営利活動法人多文化共生センター大阪」（以下、「多文化共生センター大阪」）が 2017 年に実施した「大阪市西淀川区における外国人住民生活実態調査[1]」によると、西淀川区在住の外国人 65 人（42 世帯）への調査に対し以下の結果が得られた。

- 年齢：16～19 歳が 17%、20～24 歳が 14%、25～29 歳が 17%、30～34 歳が 25%、35～39 歳が 10%、40～44 歳が 14%
- 国籍・出身国：ペルーが 60%、フィリピンが 26%、ブラジルが 11%
- 在留資格：定住者が 54%、永住者が 32%（中長期滞在可能で、活動に制限のない在留資格が約 80%を占める）
- 日本滞在期間は 10 年以上が約 50%を占める。
- 「同居する家族に日本語を第一言語とする人（18 歳以上）がいない」と回答した人が 80%以上を占める。
- 「子どもがいる」と回答した人は約 70%
- 初めて親になった年齢（実子以外も含める）が 10 代である人が約 25%
- 最終学歴は「中学校卒業」である人が 35%
- 家計状況は赤字であると答えた人が 82%で、赤字である場合、約 50%の回答者が「貯金・ 預金のとりくずし」を選択している。
- 母国の家族に仕送りをしている人が 50%を占める。
- 持ち家の人は少ない。約 80%の人が公営住宅などの賃貸に住んでいる。
- 世帯年収は 300～350 万円未満の世帯が最も多く、50～150 万円未満の低所得世帯は 20% 程度だった。
- 子どもには母語で話しかけている人が多い。一方、子どもは日本語で答えると回答した家庭もあった。
- 子どものために貯蓄をしたいが、できていない人が半数を占める。
- 子どもの進路は「大学卒業」までを希望する人が約 70%。
- 子どもは「ほぼ毎日学校に通っている」と 80%以上の人が回答している。
- 子育てについて本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手が 「いない」と答えた人 が 21%。「いる」と答えた人も相談する相手は「外国人」が多数。

子育て中の家庭が多い中、以下のような課題があることが判明した。

* 家庭内では母語で会話する場合が多く、日本語話者（第一言語）のいる家庭は 20%以下で日本語に不自由しがち
* 母国への仕送りもあり家計は厳しい
* 子育ての相談相手いないが２割、いる場合も外国人が多数で日本人との接点乏しい

同報告書では以下の４点を提言し、外国人家庭への支援の充実を訴えている。

① 外国人住民へのサポートの充実
② 外国にルーツを持つ子どもたちへの日本語学習支援および母語教育の必要性
③ 地域社会との接点の創出
④ 外国人支援の人材育成

---

[1] 「外国にルーツを持つ子どもたちのキャリアを育む事業」（http://tabunka.jp/osaka/reports/）
第１回「子供の未来応援基金」助成事業で実施

１－２　西淀川区における外国人支援活動

2009 年より西淀川区役所と「多文化共生センター大阪」が協働して外国人住民への生活支援活動を実施してきた。

図表１－２　西淀川区における外国人生活支援施策の変遷

	西淀川区	多文化共生センター大阪	外国人サポートボランティア
平成 21 年（2009 年）	Web サイト多言語化　→	受託	
平成 22 年（2010 年）	多文化フェスタ開催　→	受託	
平成 23 年（2011 年）	多文化フェスタ＋交流会　→	受託	
平成 24 年（2012 年）	多文化フェスタ＋交流会　→ ＋外国人意識調査	受託	
平成 25 年（2013 年）	生活実態調査協力	←　母子支援事業　→	親子教室 ボランティア
平成 26 年（2014 年）	区民まつりブース展示　→ ＋料理教室開催 親子教室会場提供 ＋ボランティア募集 ＋区報で広報	受託 ←　母子支援事業　→ ボランティア養成講座→	親子教室 ボランティア 受講
平成 27 年（2015 年）	親子教室会場提供	←　母子支援事業　→ （3 月まで）	親子教室 ボランティア 親子教室を 自主運営

多文化共生センター大阪　外国人母子の生活支援モデル事業 2014 年度報告書より
(http://tabunka.jp/osaka/reports/)

以後、平成 27 年（2015 年）９月に外国人による地域コミュニティとして当団体「西淀川インターナショナルコミュニティー」が結成され、平成 28 年（2016 年）１月から「多文化共生センター大阪」と協働で「学習支援教室　きらきら」を開設して子どもの生活・学習支援活動を開始した。「多文化共生センター大阪」は 2018 年３月末をもって解散し、西淀川区での活動は「西淀川インターナショナルコミュニティー」が継承している。

更に、平成 29 年（2017 年）９月に外国にルーツをもつ中学生向けの進学塾「たぶんかじゅく　アニモ」が「多文化共生センター大阪」によって開設（現在は「NPO 法人おおさかこども多文化センター」が主催）され、高校受験に特化した支援の取組みも実施されるようになった。また、外国人多住地域に位置する「大阪市立淀中学校」においても放課後の取組みとして外国にルーツをもつ生徒向けの学習支援教室が始まり、平成 30 年度（2018 年度）からは「グローバル教室」として活動が本格化した。

徐々に支援活動の充実が図られてきたが、１－１で示したような外国にルーツをもつ子どもを抱える家庭の課題を解決するには、より包括的な支援のあり方が求められた。そこで当事業を企画し、包括的・継続的な支援活動が地域で展開されることをめざした。

２　事業の概要

当事業は名称を「外国にルーツをもつ子供への学習支援地域ネットワーク事業」とし、大阪市西淀川区出来島・福地区に暮らす外国にルーツをもつ子供を対象として学習支援教室、家庭訪問、地域交流イベント開催を実施するとともに、情報共有を通じて地域における外国ルーツの子供支援ネットワークの核となることで当該地域の他の支援活動と緊密に連携し、地域全体の「支援力」を向上する事業である。

２−１　事業の目的、数値目標、期待される効果

＜事業の目的＞

大阪市西淀川区の出来島・福地区にはフィリピンや中南米出身者が多く暮らし、子供のいる世帯が 100 世帯以上あり、小中学生の各学年に５〜7 人が在籍している。外国人家庭の子供特有の不十分な日本語習得状態に由来する教科学習理解の遅れや生活習慣の違いに加え学校以外の学習機会が非常に少なく、教科や日本語習得が十分でないまま社会に出るため、貧困の連鎖に陥りやすい。

当団体ではその課題解消に向けた学習支援教室を開設しており、また、中学校での学習支援教室や外国人向け進学塾も地域で別途開設されたが、現状では子供の状況を地域で包括的に把握することが困難である。情報共有を通じて地域の各支援活動が連携することで、対象となる子供の教科や日本語の学習支援を一層充実させ、将来の貧困の連鎖をくい止めることを当事業の目的とする。

＜数値目標＞

１．当団体が主催する学習支援教室「きらきら」のべ参加者 240 人（５人×48 回）
２．外国人家庭への巡回訪問のべ件数 240 回（20 世帯×12 ヶ月）
３．地域での多文化共生イベント開催に参画し１回開催（想定来場者 200 人）
４．地域の学習支援活動全体の学習履歴や家庭訪問記録等のデータベース化件数 1,000 件（15 人×48 回＋20 世帯×12 ヶ月＋その他相談記録等 40）

＜期待される効果＞

学習支援教室「きらきら」（当団体主催）および大阪市立淀中学校での学習支援教室（大阪市学校元気アップ地域本部事業)、「たぶんかじゅく『アニモ』」（おおさかこども多文化センター）が地域で継続的に開催され、外国人家庭への巡回訪問によって子供の参加を促すことで、外国にルーツをもつ子供への十分な学習支援環境が構築でき、日本語習得や教科学習理解が促進される。

また、各教室や家庭での状況を記録し、関連する団体で情報共有することによる情報ネットワーク構築や、地域でのイベント開催により外国人住民と日本人住民の交流を促すことで、外国にルーツをもつ子供への包括的な支援ネットワークが地域で形成される。

支援ネットワーク活動が地域で進展する状況を活動履歴として記録するとともに、子供の学習理解度の履歴を残し、事業開始前後での子供の日本語習得や教科学習理解の進展状況を定量的・定性的に把握することで事業評価を行う。

２−２　事業計画

１，学習支援教室の開催
（1）時期：平成 30 年 4 月〜平成 31 年 3 月　各月 4 回計 48 回
（2）場所：大阪市西淀川区出来島地区
（3）対象者：特に支援を必要とする外国にルーツをもつ子供　各回 5 名
（4）連携団体の役割：大阪市立淀中学校での学習支援教室、「たぶんかじゅく『アニモ』」との情報共有と指導内容の相互支援
（5）内容：出来島地区のコミュニティ会館を借り、外国人家庭の特に支援を必要とする子供を対象として日本語および教科の学習支援を行う。

２．外国人家庭への巡回訪問
（1）時期：平成 30 年 4 月〜平成 31 年 3 月　20 世帯を毎月訪問 計 240 回訪問
（2）場所：大阪市西淀川区出来島、福地区の外国人家庭
（3）対象者：特に支援を必要とする外国人家庭　20 世帯
（4）連携団体の役割：生活相談で外部支援が必要な場合、西淀川区役所と連携して調整
（5）内容：事業担当者が定期的に子どもを持つ外国人家庭を巡回し、家庭状況を把握するとともに、当団体の活動を紹介し学習支援教室等への参加を呼びかける。必要に応じて生活相談を受け、地域の関係部署との仲介調整を行う。

３．地域との交流促進
（1）時期：平成 30 年 9 月頃　1 回
（2）場所：大阪市西淀川区出来島地区
（3）対象者：地域住民（外国人、日本人含む）　想定来場者 200 人
（4）連携団体の役割：出来島商店会および西淀川区役所とともにイベント実行委員会を結成
（5）内容：出来島商店会、西淀川区役所、地域住民等と外国人住民が連携して開催する地域の交流イベントの企画・実施に参画し地域の多文化共生を促進する。事業担当者がイベント実行委員会の委員となり諸業務や調整を行う。

４．情報ネットワークの構築
（1）時期：平成 30 年 4 月〜平成 31 年 3 月　随時
（2）場所：大阪市西淀川区出来島、福地区
（3）対象者：当団体の学習支援教室、大阪市立淀中学校での学習支援教室、「たぶんかじゅく『アニモ』」での学習者　計 15 名、家庭訪問家庭　20 世帯
（4）連携団体の役割：大阪市立淀中学校での学習支援教室、「たぶんかじゅく『アニモ』」と学習履歴の共有
（5）内容：各学習支援教室の活動履歴や家庭訪問記録等をクラウド上でデータベース化し適切な情報管理のもとで情報共有を行う。上記 3 教室で 720 件（15 人×48 回）、家庭訪問記録 240 件（20 世帯×12 ヶ月）、その他生活相談記録等を含め 1,000 件以上を登録し、地域全体の対象となる子供の状況をリアルタイムで把握でき、活動の詳細な分析や事業評価、更に子供への適切な対応を敏速に実施できる体制を構築する。

３　事業の実施

３−１　学習支援教室「きらきら」の開催

西淀川区出来島連合振興町会の協力を得て、公民館である「出来島会館」（大阪市西淀川区出来島１丁目１１）にて、毎週木曜日 16:00 から 17:30 の日時に、主に小学生向けの学習支援教室を「きらきら」という名称で、2018 年４月から 2019 年２月まで実施した。3 月以降は地域の薬局の協力を得て貸し会議室「ゆうせいホール」（大阪市西淀川区出来島１丁目１３－２ 2F）で実施した（移転の経過は後述）。

合計 44 回開催し、のべ 148 名（ペルー 95、フィリピン 38、ブラジル 12、中国 1、日本 2）の参加があった。小学生のべ 136 名、中学生のべ 12 名で参加者のほとんどは小学生（小学２年生〜６年生）であった。

図表３−１ 学習支援教室「きらきら」の開催実績

No.	日付	ペルー	フィリピン	ブラジル	その他	合計	支援者	内容
1	2018/4/5	0	0	0		0	3	子ども参加なし、講師で打ち合わせ実施
2	2018/4/12	0	0	0		0	3	子ども参加なし、講師で打ち合わせ実施
3	2018/4/19	1				1	3	漢字ドリル 自己紹介カードの作成
4	2018/4/26	1				1	3	漢字ドリル →終了後、画用紙に描画
5	2018/5/10	1	1	1		3	3	宿題（漢字ドリル、算数ドリル、音読） 母の日のカードづくり
6	2018/5/17	2	1	1		4	3	宿題（漢字ドリル、算数ドリル、音読、漢字の試験勉強など） 終了後、お絵描き、タブレットで漢字ゲーム
7	2018/5/24	2				2	4	宿題（漢字ドリル、算数ドリル） 出席記録用のスタンプカードづくり、タブレットで漢字ゲーム
8	2018/5/31	2		1		3	4	宿題（漢字ドリル、算数ドリル、英語教科書練習とワーク） 学校についての作文、タブレットで漢字ゲーム
9	2018/6/7	3	1	1		5	4	宿題（漢字ドリル、算数ドリル、英語教科書練習） タブレットで漢字ゲーム
10	2018/6/14	3	2	1		6	4	宿題（算数ドリル、漢字ドリル、計算プリント）、作文（本読み、好きなこと） 7 月 29 日のイベントでの展示作品づくりに向けて話し合い （みんなで何をつくるかを板書を取りながら決定）
11	2018/6/21	3	2			5	3	宿題（算数ドリル、漢字ドリル）、作文（本読み） 7 月 29 日のイベントでの展示作品づくりに向けて話し合い （絵を描くことに決まったため、何を描くかを決定）
12	2018/6/28	2	1			3	4	宿題（算数ドリル、漢字プリント）、作文（1 日のこと） 7 月 29 日のイベントでの展示作品づくりに向けて話し合い （作品をつくる上での必要物、作品づくりのスケジュールを決定）

13	2018/7/5	2	2	1		5	4	宿題（算数ドリル、漢字ドリル）、作文（好きなこと） 7 月 29 日のイベント用の国旗づくり
14	2018/7/12	1	2			3	3	宿題（算数ドリル、漢字ドリル）、作文（1 日のこと） 7 月 29 日のイベントで展示する絵を描く
15	2018/7/19	1	2			3	4	宿題（算数ドリル、漢字ドリル）、本読み 7 月 29 日のイベントで展示する絵を描く
16	2018/7/26	2	2			4	5	夏休みの宿題（社会、計算） 7 月 29 日のイベントで展示する作品の完成 （今まで描いた絵や折り紙を模造紙に張り付けていき、完成） 支援者は企業からのボランティア含む
17	2018/8/30	3				3	4	各自の夏休み宿題
18	2018/9/13	3	2			5	5	各自の宿題 図画工作、本読み、漢字ドリル
19	2018/9/20	2	2	1		5	4	各自の宿題 図画工作、算数ドリル、漢字ドリル
20	2018/9/27	2				2	9	各自の宿題 本読み、漢字ドリル 支援者は企業からのボランティア含む
21	2018/10/4	1				1	4	各自の宿題 漢字ドリル
22	2018/10/11	3	1			4	4	各自の宿題 図画工作、算数ドリル
23	2018/10/18	1	1			2	4	各自の宿題 算数ドリル、漢字ドリル
24	2018/10/25	2	1			3	3	各自の宿題 図画工作、漢字ドリル
25	2018/11/1	2	1			3	3	各自の宿題 図画工作、算数ドリル
26	2018/11/8	2				2	3	各自の宿題 算数ドリル、漢字ドリル
27	2018/11/15	3		1		4	4	各自の宿題 本読み、漢字ドリル
28	2018/11/22	3	1	1		5	4	各自の宿題 図画工作、算数ドリル、漢字ドリル
29	2018/11/29	3	1	1		5	4	各自の宿題 図画工作、算数ドリル、漢字ドリル
30	2018/12/6	1				1	4	各自の宿題 百人一首
31	2018/12/13	3	2			5	4	各自の宿題 図画工作、百人一首
32	2018/12/20	3	2	1		6	4	各自の宿題 クリスマス会（茶菓とゲーム）
33	2019/1/10	2				2	4	各自の宿題 百人一首、算数ドリル
34	2019/1/17	2				2	4	各自の宿題 百人一首、算数ドリル
35	2019/1/24	2	2			4	4	各自の宿題 図画工作、百人一首、漢字ドリル
36	2019/1/31	2				2	4	各自の宿題 算数ドリル、漢字ドリル
37	2019/2/7	3		1		4	3	各自の宿題 百人一首、算数ドリル、漢字ドリル
38	2019/2/14	3				3	3	各自の宿題 算数ドリル、漢字ドリル
39	2019/2/21	3				3	3	各自の宿題 算数ドリル、漢字ドリル

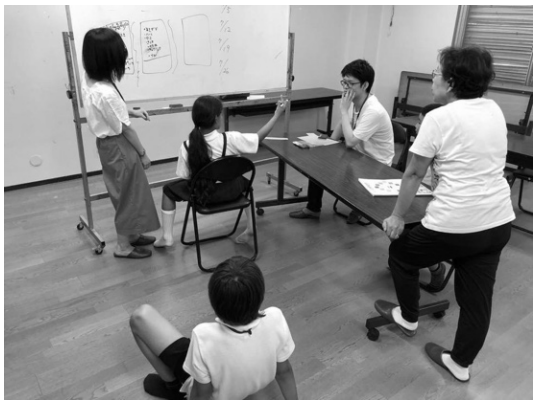
40	2019/2/28	3				3	4	各自の宿題 算数ドリル、漢字ドリル
41	2019/3/4	4				4	4	各自の宿題 算数ドリル、漢字ドリル
42	2019/3/11	1	2		2	5	4	各自の宿題 図画工作、本読み、漢字ドリル （その他２は日本人→フィリピン人参加者の友人）
43	2019/3/18	4	2			6	4	各自の宿題 図画工作、算数ドリル、漢字ドリル
44	2019/3/25	3	2		1	6	4	各自の宿題 春休みのお楽しみ会（茶菓とゲーム） （その他１は中国）
	合計	95	38	12	3	148	169	

図表３−２　支援教室の様子

支援者１に対して子ども１または２で学習

終わりの会で今日の内容を発表しあう

母の日のカード作り（写真を撮影・印刷して
メッセージカードを作成）



地域イベントへ出展する図画工作の案を子ども主導で検討

地域イベントへ出展する図画工作の作成

教室でのルールづくりを子どもが中心になってミーティング

支援方法・内容

支援は、子どもの宿題を中心に実施した。子ども１～２人に支援者１人がつきながら、学校で出される漢字ドリルや算数ドリルなどの宿題に一緒に取り組んだ。子どもが分からない部分や難しい部分は、子どものペースに合わせてゆっくり説明したり、子どもの日常の体験に引き付けて説明したりすることを心掛けた。宿題が終了した場合も、教室にあるドリルなどの教材を用い、学校での勉強に対する補足を行った。また、子どもの必要に応じて支援者が問題プリントを作成し、漢字の読み書きや意味調べ、計算問題を行えるようにした。いずれの内容についても、できなかったことは否定せず、一緒に考えたりヒントをだしたりするようにし、できたことを積極的に評価するようにした。

宿題や教科学習以外に、教室の後半には作文や図画工作、その他子どもの希望するアクティビティを行う場合もあった。例えば、写真を使って家族へのメッセージカードを書く、その日１日の出来事について作文をする、タブレットを使って漢字や計算のゲームをしたりする、というものがあった。また、特に夏期は７月末のイベントに向けて、子ども達で１つの作品を作成した。その際の話し合いも子ども主導で行うように促し、子ども達が話し合って作品を作る形をとった。

教室の終了時には、毎回「終わりの会」を実施した。司会進行は子どもが行い、その日の成果を１人１人が発表する。また、それぞれの子どもを担当した支援者が学習内容の評価を行った。この評価に応じて毎回スタンプを１～２個付与し、10 個貯まるごとに文房具などの景品を渡すというスタイルで、子どもの頑張りを可視化した。

その他、クリスマス会やお楽しみ会といったイベントを実施し、子どもが教室を楽しいと思えるような場を設けることも心掛けた。

学習支援教室会場の変遷

学習支援教室の会場については、西淀川区出来島連合振興町会の協力を得て、公民館である「出来島会館」（大阪市西淀川区出来島１丁目１１）を毎週木曜日の 15:30 から 17:30 まで借りて実施していた。教室開催を進める中で、「通う子どもの家から遠く、小学生には負担になる」「周囲に街灯等がなく秋から冬にかけて帰り道が相当暗くなるため、子どもが怖がる」等の意見が支援者から上がり、新たな会場の検討を行うこととした。

当事業の学習支援ネットワーク団体である「たぶんかじゅく『アニモ』」（NPO 法人おおさかこども多文化センター主催）が毎週月曜日に阪神出来島駅直近にある薬局「ゆうせい薬局」が運営する貸し会議室「ゆうせいホール」（大阪市西淀川区出来島１丁目１３−２ 2F）を 17:30 から 19:00 まで借りて実施しており、その前の時間 16:00 から 17:20 までを当団体で借りて学習支援教室を実施する検討を行った。

教室を移転する長所として以下が挙げられ、2019 年 3 月より「ゆうせいホール」にて実施することを当団体として決定した。

・阪神出来島駅直近で人通りが多く明るい
・子どもの家庭まで徒歩 5 分程度短縮できる
・「きらきら」を小学生向け、「アニモ」を中学生向けとして月曜日に一括して実施することで、利用者にわかりやすく、小中と一貫して支援があるアピールになる
・「きらきら」の開始前も教室を借りることで保護者の来所相談を受けることが可能になり、生活課題の解決につながる

子どもの変化

開始当初は、子どもが勉強中に動きまわったり大声を出したりして支援を行うことが難しいこともあった。しかし、支援者が一緒に横に座って落ち着いて勉強ができるようにしたり、休憩時間を設けて教室のリズムを作ったりすることにより、まずは自分の宿題を終わらせるということができるようになった。また、中には宿題が終わってから教室のドリルや支援者が作成したプリントなどのプラスアルファの教材に積極的に取り組む子どもも出てきた。他の子どもが取り組んでいる姿を見て、自分もやりたいと言って取り組んだり、教室にある教材を一緒に見ながら自分で取り組むものを決めたりする姿が見られるようになった。上級生の場合は、下級生の使っている教材を見て教えたり一緒に考えたりすることもある。

勉強以外の面では、「終わりの会」の進め方に変化が見られた。始めた当初は比較的自由な形であったため、司会の経験が少ない場合は何と言っていいか分からなかったり、進行の仕方が無秩序であったりして締まりのない印象が強かった。しかし、司会進行のフローを作ることにより、司会進行役がはっきりした流れに沿って会を進めることができるようになった。そのほか、子どもが自分で教室のルール作りをすることができるようにもなった。教室の実施場所が「ゆうせいホール」に変わったことを機に教室での決まりを確認した際に、子ども達にルールについて尋ねると、普段教室で起こっていることをもとに、積極的にルールの案を出していた。

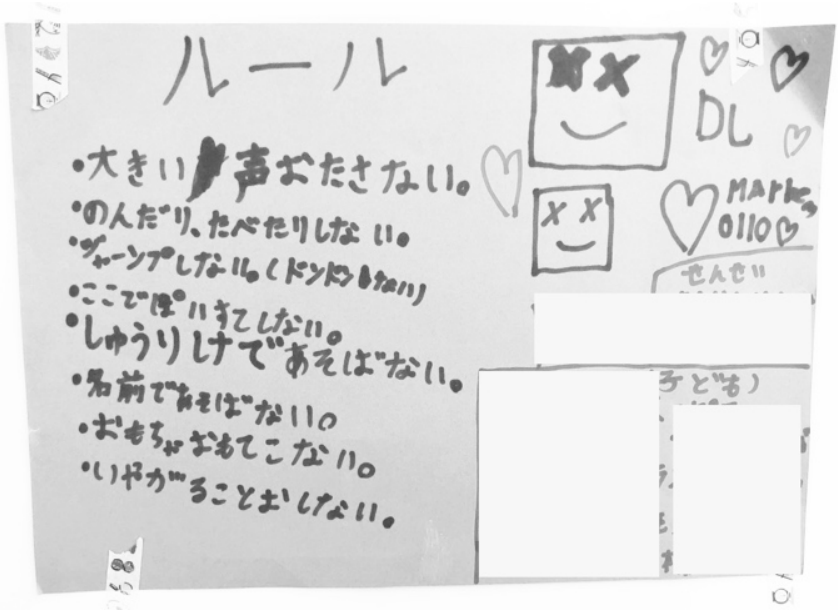
このように、学習面では勉強への取り組み方に、教室での行動としては、話し合いへの参加の仕方に変化が見られた。

評価と成果

１年間の活動を通し、子どもに上記のような変化が見られるようになったことは評価できるといえる。教室でプラスアルファの教材を用意し、宿題以外に子どもがやりたいと思う勉強をできる場をつくることができた。できたことを積極的に評価し、子どもと話しな

がら一緒に考えていったことは、勉強への取り組みやすさにつながったと考えられる。また、スタンプを貯めていく形で子どもの頑張りとそれに対する評価を可視化することで、子どものモチベーションを一定程度保つことができたと考えられる。そのほか、「終わりの会」や作品造り、ルール決めの話し合いなどで子どもが人の前で発言できる場をつくることができた。

図表３−３　子どもが作成した教室のルール（毎回、教室に掲示）



課題としては、活動開始当初に考えていた、作文などの言語表現活動や本読みを教室での活動に取り入れることができなかったことが挙げられる。教室にある本が既に読んだことのあるものであったり、文章を読んだり書いたりすることに抵抗があったりすることで取り入れることが難しかったと考えられる。そのため、学校の教科書を利用したり、読み書きのハードルを下げたりという工夫が必要だといえる。また、勉強と勉強以外の活動とのバランスも今後の課題であろう。以前と比較して落ち着いて勉強に取り組めるようになったとはいえ、集中が続かなかったりすることも依然として見られる。集中して勉強する習慣づけと、勉強や教室への参加に抵抗を抱かせないように楽しめる要素を入れることのバランスを取っていく必要がある。

上述した課題はあるものの、学習支援活動を通して勉強への向き合い方に変化が見られた子どもがいること、学校の宿題やそのほかの勉強をする場所を提供できたこと、といった一定の成果が見られる。

３−２　外国人家庭への巡回訪問

事業担当者が定期的に子どもを持つ外国人家庭を巡回し、家庭状況を把握するとともに、当団体の活動を紹介し学習支援教室等への参加を呼びかける。必要に応じて生活相談を受け、地域の関係部署との仲介調整を行った。

学習支援教室会場への来訪も含め合計 24 回実施（ペルー 14、フィリピン 5、ブラジル 4、不明（イスラム系）1）した。直接的な訪問に加えて、訪問した家庭の保護者との SNS（LINE）や電話による連絡は、5 月以降の学習支援教室開催（40 回）ごとに２〜3 人へ開催通知を行っており、のべ約 100 回の間接的な接触があった。その中で子どもの教育を中心にして、さまざまな生活面での相談を受けた。

図表３−４ 外国人家庭への巡回訪問実績

No.	訪問日	国籍	内容	備考
1	2018/4/2	ペルー	家庭状況調査と学習支援教室勧誘	以後、「たぶんかじゅくアニモ」へ通うようになった
2	2018/4/16	ペルー	家庭状況調査と学習支援教室勧誘	
3	2018/4/27	フィリピン	家庭状況調査と学習支援教室勧誘	
4	2018/4/27	フィリピン	家庭状況調査と学習支援教室勧誘	以後、「学習支援教室きらきら」へ定期的に通うようになった
5	2018/4/27	フィリピン	家庭状況調査と学習支援教室勧誘	
6	2018/5/1	ブラジル	家庭状況調査と学習支援教室勧誘	
7	2018/5/7	ペルー	家庭状況調査と学習支援教室勧誘	以後、「たぶんかじゅくアニモ」へ通うようになった
8	2018/5/8	ペルー	家庭状況調査と学習支援教室勧誘	以後、「学習支援教室きらきら」へ定期的に通うようになった
9	2018/5/10	ペルー	家庭状況調査と学習支援教室勧誘	
10	2018/5/17	ペルー	家庭状況調査と学習支援教室勧誘	
11	2018/5/31	不明	学習支援教室の説明とチラシ配布依頼	イスラム寺院近くのハラルレストランを訪問
12	2018/6/11	フィリピン	子どもの病気と母親の就職に関する相談	
13	2018/6/17	ブラジル	子どもの教育相談	
14	2018/6/25	ペルー	家庭状況調査と学習支援教室勧誘	
15	2018/8/6	ペルー	子どもの教育相談	
16	2018/12/24	ブラジル	子どもの教育相談	
17	2018/12/29	ペルー	子どもの教育相談	
18	2019/2/13	ペルー	学習支援教室での様子報告と教育相談	
19	2019/2/13	ペルー	学習支援教室での様子報告と教育相談	
20	2019/3/4	ペルー	子どもの教育相談	
21	2019/3/11	ペルー	子どもの教育相談	「学習支援教室きらきら」開始前に来訪があり面談
22	2019/3/18	ペルー	子どもの教育相談	「学習支援教室きらきら」開始前に来訪があり面談
23	2019/3/21	フィリピン	学習支援教室での様子報告と教育相談	
24	2019/3/31	ブラジル	子どもの教育相談	

事業実施上の課題

事業担当者が定期的に子どもを持つ外国人家庭を巡回し、家庭状況を把握することを試みたが、諸事情により相当な困難が発生した。そのため計画の変更申請を 2019 年 1 月に行い、当初年間計画の 240 軒訪問（月 20 件×12 か月）を、年間 30 軒訪問および SNS 等の間接的接触 100 件を目標としたが、結果として直接訪問は目標に達しなかった。当事業において家庭訪問実施が困難であった原因を以下に述べる。

１．自然災害の多発

2018 年 6 月 18 日に大阪北部地震、7 月 5，6 日に西日本豪雨、9 月 4 日に台風 21 号と大阪府域を立て続けに自然災害が襲い、西淀川区住民の生活に大きな制約を与えた。また事業担当者も大阪府内在住のため、外国人家庭と事業担当者双方で家庭訪問の実施が難しい状態が 6 月後半から数ヶ月続いた。

２．地域の外国人キーパーソンとの連携

近隣の外国人の相談役となっていた外国人キーパーソンと連携し、外国人家庭の紹介を受けて訪問をする予定であったが、2018 年 3 月頃から当人が病気療養せざるを得ない状況となり、外国人家庭とのパイプが切れた状態となってしまった。

３．外国人家庭の事情

外国人保護者の勤務時間が夜遅くまでになることが多いこと、さらに外国人保護者の日本語は十分ではなく、通訳者の存在が欠かせない、といった事情から訪問日時と通訳者の調整が非常に難しく、限られた訪問数となった。

また、一旦つながりができた外国人家庭とは SNS（LINE）等を通じてローマ字綴りの簡単な日本語でメッセージの交換を毎週行うことができ、連絡事項や相談がある時は電話で連絡をとりあった。そのために直接的な訪問を行うことなく、常に状況を把握することがおよそ可能になったことも原因として考えられる。

外国人家庭の抱える課題

家庭訪問や間接的な連絡を行う中で、従来から指摘があった日本の教育システムがわからない、学校からのお知らせが読めない等の課題は依然として存在していることが明らかになった。保護者は日本語が不十分なことが多く、日本語学習の機会を望んでいるが勤務が忙しく実現していない現状が続いている。そのため、子どもの教育に関心は高いが、必要な情報を得ることが難しく、不安を抱えているケースが多く見られた。

また、家庭の事情により、母親や兄弟と別れ、父親と二人暮らしで生活が不安定になり、不登校状態がしばらく続いていた子どももおり、日本語学習、日本での教科学習、年齢相応の母語での学習言語としての思考力・表現力に課題を抱えていた。「たぶんかじゅく『アニモ』」に勧誘し、断続的ながら通うことができるようになったことで、遅れを多少なりとも取り戻すことができた。

３−３　地域との交流促進

出来島商店会、西淀川区役所、地域住民等と外国人住民が連携して開催する地域の交流イベントの企画・実施に参画し地域の多文化共生を促進する。事業担当者がイベント実行委員会の委員となり諸業務や調整を行った。

３−３−１　「にしよどワールドフェスタ in 出来島」の開催

例年「フェスタジュニーナ」として６月に開催してきたブラジルのお祭りを地域の関連団体と協働することで拡大発展し、「にしよどワールドフェスタ in 出来島」の開催を企画した。実行委員長に当団体代表の中村が就任し、地域の諸団体や外国人住民との調整を行った。また多言語（英語、スペイン語、ポルトガル語）によるチラシを作成し、外国人住民の参加を促した。

残念ながら当日は台風 12 号の直撃が予想されるため、事前に中止が決定され、開催には至らなかったが、地域に対して当団体や活動のアピールができた。以下に当イベントの概要を示す。

行事名・日時・場所
「にしよどワールドフェスタ in 出来島」
2018 年７月 29 日（日）11:00-18:00
出来島会館（西淀川区出来島１−１−１）

目的
外国人が多く暮らす西淀川区において外国人住民と日本人住民が交流する機会を提供することで、食や芸能を通じて共に文化を知り合う契機となり、ひいては多文化共生の理念を体得することで、地域における日常的な交流の増大に寄与することを目的とする。

運営体制
主催：「にしよどワールドフェスタ in 出来島」実行委員会
委員長：中村満壽央（西淀川インターナショナルコミュニティー　代表）
構成：西淀川インターナショナルコミュニティー
　　出来島商店会
　　西淀川区生涯学習推進区民会議
　　生涯学習推進員区連絡会
　　出来島小学校生涯学習ルーム
　　出来島親子日本語教室
　　西淀川区外国人サポートスタッフ
後援：出来島地域活動協議会
　　西淀川区社会福祉協議会
協力：西淀川区役所

内容
従来、「フェスタジュニーナ」として６月に開催してきたブラジルのお祭りを拡大発展し、「ペルアナ」というペルーのお祭りも兼ねて７月 29 日に第１回「にしよどワールドフェスタ in 出来島」として実行する。副題を「JULIANA & PERUANA」（ジュリアナ & ペルア

ナ）として、ペルーやブラジルに関連のある屋台や芸能を中心にして、世界の文化を紹介する（ジュリアナはブラジル、ペルアナはペルーのお祭りを各々表す）。

・地域の外国人住民や諸団体による世界の料理等を提供する屋台：１０～１２店舗
・外国人住民等による中南米の歌やダンス披露：５～6 組
・地域の外国人住民支援活動紹介：２～3 組
・景品の福引き会

参加者は近隣の住民 200 人程度を想定。

図表３−５　「にしよどワールドフェスタ in 出来島」チラシ

左：日本語　右：上から英語、スペイン語、ポルトガル語

また、学習支援教室において子どもに図画工作の作品出展の提案を行い、子ども自らが内容の企画と作成を行った。当イベントは中止となったが、３−３−２のイベントにて展示を行い、活動の成果を紹介することができた。

３−３−２　「にしよどがわ商店街にぎわい再生イベント in 出来島」への参加

西淀川区出来島の地域活動協議会や商店会が主催するイベントに参加し、活動紹介の掲示と、ネットワーク団体である「たぶんかじゅく アニモ」が主催する古着バザーの支援を行った。子どもの作品を出来島コミュニティ会館内で掲示し、参加した地域住民に活動をアピールできた。

行事名・日時・場所

「にしよどがわ商店街にぎわい再生イベント in 出来島」
2018 年 11 月 23 日（祝）11:00-16:00
出来島コミュニティ会館、出来島第２公園

図表３−６　「にしよどがわ商店街にぎわい再生イベント in 出来島」チラシと当日の様子

左上：イベントチラシ

右上：子どもの作品を掲示

左下：バザーの様子

３−４　情報ネットワークの構築

各学習支援教室の活動履歴や家庭訪問記録等をクラウド上でデータベース化し情報共有を行った。また、地域の支援活動をまとめたパンフレットを４言語（日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語）で作成し、外国人家庭や関係諸機関に配付した。

３−４−１　活動記録データベースの開発

学習支援教室「きらきら」の活動記録蓄積および地域で支援活動を実施している各取組み間の情報共有を推進するため、活動記録データベースを開発し運用することで、地域における対象となる子どもの把握や経年変化を整理した状態で記録・閲覧できるようにした。クラウドデータベース（サイボウズ社、kintone）を用い、学習教室開催記録、子どもの家庭状況記録、子どもの出席記録の各データベースを開発してデータを入力した。

図表３−７　活動記録データベースの概要

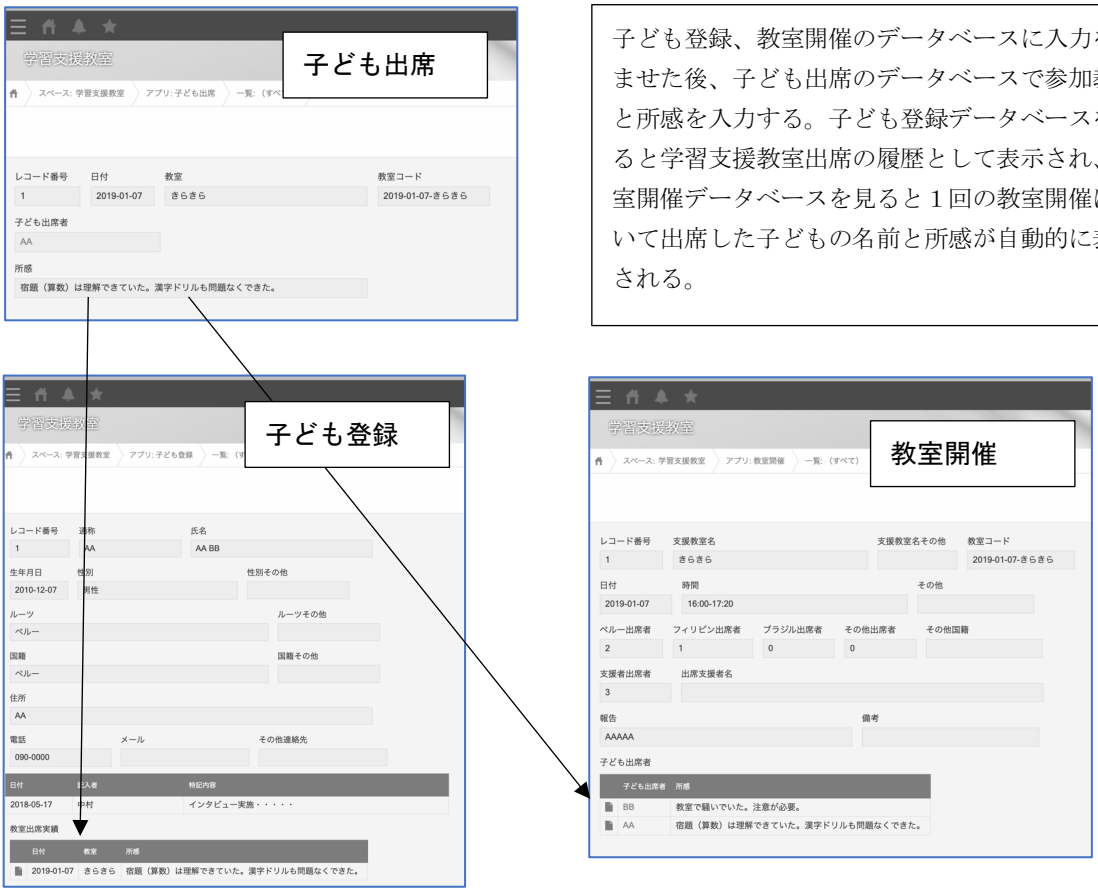
子ども登録データベース
子ども各人の個人情報や家庭訪問履歴等を記録。個人情報が含まれるため、アクセス権限を当団体で厳重に設定・管理する。

教室開催データベース
「きらきら」および「アニモ」の開催実績を記録する。出席者数、支援者、当日の全体状況等を記載し、子ども各人の記録は次に述べる「子ども出席データベース」にて登録を行う。

子ども出席データベース

「子ども登録データベース」から子どもの名前を呼び出し、学習支援教室の記録と子どもに対する所感を入力する。

図表３−８　活動記録データベースの運用例



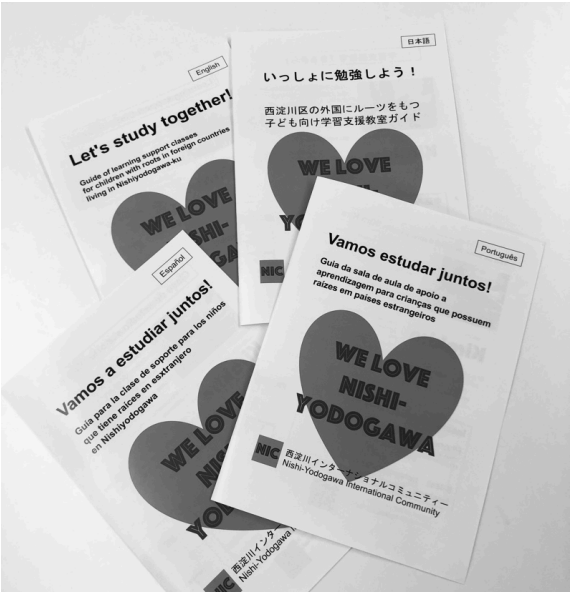
子ども登録、教室開催のデータベースに入力を済ませた後、子ども出席のデータベースで参加教室と所感を入力する。子ども登録データベースを見ると学習支援教室出席の履歴として表示され、教室開催データベースを見ると１回の教室開催において出席した子どもの名前と所感が自動的に表示される。

以上により、子どもの出席状況が子ども個人ベースと教室ベースの双方で確認できるようになり、情報を整理して記録・閲覧することが可能になった。当データベースに事業の結果を入力し、教室開催：92 件、子ども登録：12 件、子ども出席：290 件（いずれも「きらきら」「アニモ」の実績合計）の計 394 件のデータ収納を行った。

３−４−２　西淀川区の支援活動紹介パンフレットの作成

西淀川区で外国にルーツを持つ子どもの支援活動を紹介するパンフレットを 4 言語（日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語）で各 500 部作成し、外国人家庭や近隣の学校、区役所等へ配付した。当事業である「学習支援教室　きらきら」、ネットワーク団体である「たぶんかじゅく『アニモ』」の情報に加え、大阪市立淀中学校で開催している外国にルーツを持つ生徒向けの放課後学習教室「グローバル教室」の紹介も掲載することができ、当事業の目標である支援のネットワーク化を具体的なかたちで広くアピールすることができた。

図表３−９　活動紹介パンフレット



パンフレット詳細については巻末の参考資料を参照（各言語の全文を掲載）

４　事業の成果と評価

４－１　事業の成果

当事業は情報共有を通じて地域の各支援活動が連携することで、対象となる子供の教科や日本語の学習支援を一層充実させ、将来の貧困の連鎖をくい止めることを目的として、１．学習支援教室の開催、２．外国人家庭への巡回訪問、３．地域との交流促進、４．情報ネットワークの構築、の活動を実施し、以下の成果を得た。

１．学習支援教室の開催

合計 44 回開催し、のべ 148 名（ペルー 95、フィリピン 38、ブラジル 12、中国 1、日本 2）の参加があった。小学生のべ 136 名、中学生のべ 12 名で参加者のほとんどは小学生（小学２年生～６年生）であった。2018 年４月の開始当初は十分な広報ができず参加者がいない状態があったが、家庭訪問を実施することで認知度があがり、４月中旬から徐々に子どもが通いはじめ、５月以降は毎回３～５名が参加する状態が続いた。

開始当初は、子どもが勉強中に動きまわったり大声を出したりして支援を行うことが難しいこともあったが、支援者が一緒に横に座って落ち着いて勉強に集中させる、休憩時間を設けて教室のリズムを作る等により、自分の宿題を終わらせることができ、学習の習慣を身につけたことが大きな成果として挙げられる。

また、フェスティバルに出展する図画工作の作品について内容とスケジュールを子どもが討議しながら進めたことや、教室のルールを子どものみによる会議を通じて自主的に策定することができた等、子どもの自主性を高めることができた。

２．外国人家庭への巡回訪問

学習支援教室会場への来訪も含め合計 24 回実施（ペルー 14、フィリピン 5、ブラジル 4、不明（イスラム系）1）した。直接的な訪問に加えて、訪問した家庭の保護者との SNS（LINE）や電話による連絡は、5 月以降の学習支援教室開催（40 回）ごとに２～3 人へ開催通知を行っており、のべ約 100 回の間接的な接触があった。その中で子どもの教育を中心にして、さまざまな生活面での相談を受けた。

３－２に示した諸要因により、外国人家庭への訪問は非常に困難であったが、訪問することで学習支援教室への参加につなげることができたことや、不登校状態であった子どもを学習支援活動に参加させることができた等の成果が得られた。

また、日本語の習得ができず、学校からの連絡がわからない等、従来から指摘されていた問題が改善されず、放置された状態のままであることも判明した。

３．地域との交流促進

地域の諸関連団体が協働して「にしよどワールドフェスタ in 出来島」を企画し、当団体代表の中村が実行委員長に就任して 2018 年 7 月 29 日開催を予定していたが、台風のため中止となった。開催準備を通じて地域の諸団体での認知を高め、関係を深めることができた。

その後、2018 年 11 月 23 日開催の西淀川区出来島の地域活動協議会や商店会が主催する「にしよどがわ商店街にぎわい再生イベント in 出来島」に出展し、子どもの図画工作の作品展示と活動紹介を実施することができた。

４．情報ネットワークの構築

学習支援教室「きらきら」の活動記録蓄積および地域で支援活動を実施している各取組み間の情報共有を推進するため、活動記録データベースを開発し運用することで、地域における対象となる子どもの把握や経年変化を整理した状態で記録・閲覧が可能になった。収納情報として、教室開催：92 件、子ども登録：12 件、子ども出席：290 件の計 394 件のデータ収納ができた。

西淀川区で外国にルーツを持つ子どもの支援活動を紹介するパンフレットを 4 言語（日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語）で各 500 部作成し、外国人家庭や近隣の学校、区役所等へ配付することで、支援のネットワーク化を具体的なかたちで広くアピールすることができた。

４−２　事業の評価

事業目標については自然災害等の影響で外国人家庭への訪問が困難になり、2019 年 1 月の時点で計画変更申請を行い、図表４−１に示す内容で目標設定を変更した。計画変更後の目標と実績を比較すると、「２．外国人家庭への巡回訪問」は訪問回数が下回ったもの、他の項目ではほぼ目標を達成することができた。

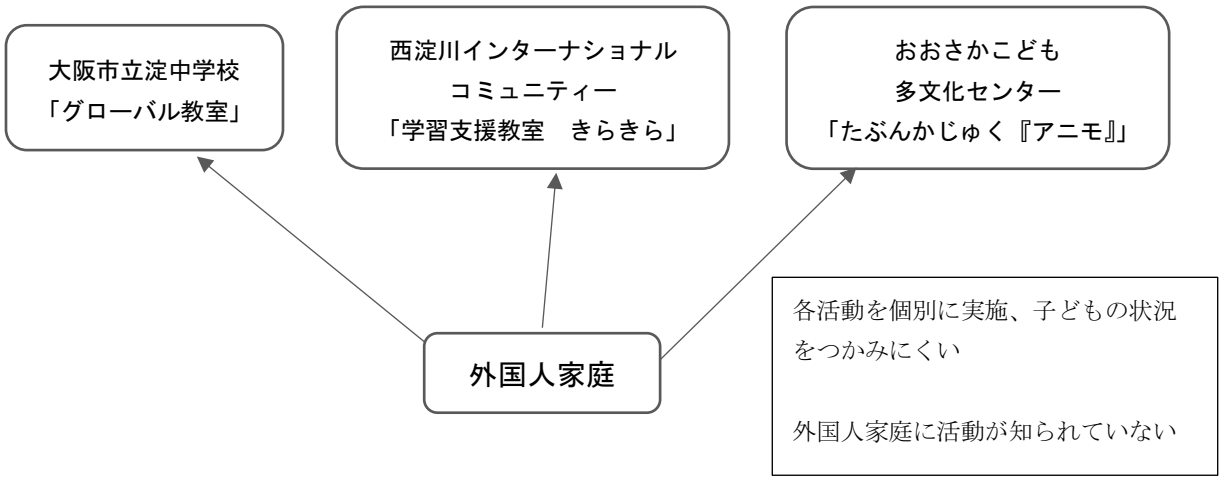
図表４−１　計画と実績一覧

活動項目	当初計画	2019 年 1 月の計画変更	実績	達成度評価
１.学習支援教室の開催	毎週開催（年間 48 回）、各会５名参加	自然災害等の影響で年間開催数 43 回	計 44 回開催、のべ出席者 148 名	○
２．外国人家庭への巡回訪問	毎月、外国人家庭 20 世帯訪問（20×12 か月でのべ 240 件）	家庭訪問のべ 30 件、間接的な連絡・相談をのべ 100 件	家庭訪問 24 件、間接的な連絡・相談約 100 件	△
３．地域との交流促進	地域での多文化共生イベント開催に参画し１回開催	計画変更なし	11 月 23 日イベントに出展し活動紹介実施	○
４．情報ネットワークの構築	地域の学習支援活動、全体の学習履歴や家庭訪問記録等のデータベース化件数 1,000 件	家庭訪問の減少等で登録件数 350 件、活動紹介パンフレット作成	394 件の情報を登録、パンフレット 500 部 x4 言語作成	○

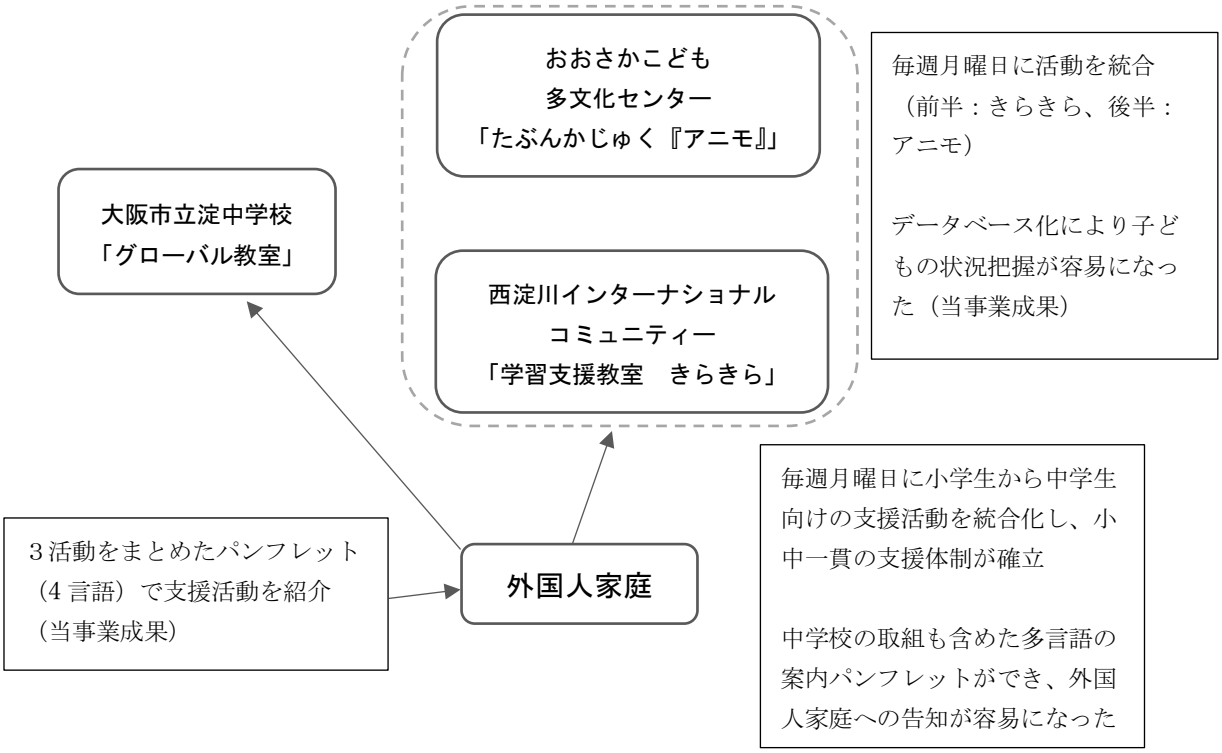
また当事業の目的である地域の各支援活動が連携することで、対象となる子供の教科や日本語の学習支援を一層充実させ、将来の貧困の連鎖をくい止めることについては、事業を通じて各支援活動がより密接に連携することができ、小学生から中学生までを一貫して支援できる体制が構築できたことが大きな成果である。図表４−２に事業前後の変化を示す。

図表４－２　事業前後の変化

事業前（2018 年４月）



事業後（2019 年４月）

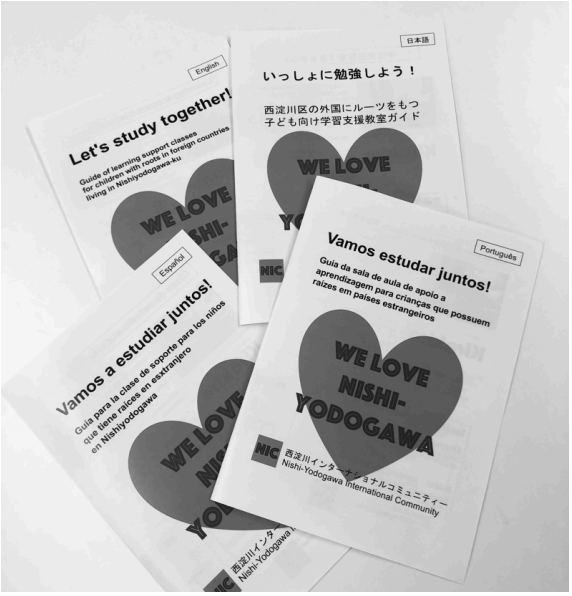


地域支援活動のネットワークについては当事業により整備を進めることができた。今後は外国人家庭への働きかけをより緊密に行い、子どもの育成・教育や生活課題の解決を図ることで、地域の多文化共生実現への一助となる活動を継続していきたい。

参考資料

西淀川区の外国にルーツをもつ子ども向け学習支援教室ガイド

・日本語版
・英語版
・スペイン語版
・ポルトガル語版



（A4 両面印刷、二つ折り）

大阪市立淀中学校　グローバル教室

大阪市立の小中学校では、平成３０年度より外国にルーツを持つ子どもたちの日本語指導や母語の保持・伸長を図るための支援や施策を行っています。

写真は、淀中学校のグローバル教室の様子です。高校に通っている教室の先輩が応援に来てくれました。

淀中学校の生徒を対象とした放課後の学習支援教室です。詳しくは先生に問い合わせてください。

西淀川インターナショナルコミュニティー

西淀川インターナショナルコミュニティーは、大阪市西淀川区に暮らす外国人住民、特に外国にルーツをもつ子どもへの育成支援を、外国人と日本人が協働して取り組むボランティア団体です。

コンタクト
URL http://tabunka.jp/nishiyodogawa-ic/
Facebook http://fb.me/Nishiyodogawa.IC　→
*Enter fecebook → Search　'Nishiyodogawa'
E-mail nishiyic@gmail.com

事務局
一般財団法人ダイバーシティ研究所が事務局を担当しています。
http://diversityjapan.jp

子供の未来応援国民運動　子供の未来応援基金の支援を受け実施しています

日本語

いっしょに勉強しよう！

西淀川区の外国にルーツをもつ子ども向け学習支援教室ガイド

NIC 西淀川インターナショナルコミュニティー
Nishi-Yodogawa International Community

学習支援教室「きらきら」

Kirakira

一緒に学校の宿題や日本語の勉強をします。宿題や勉強したいものを持ってきましょう。

そのほか、教室にある問題も使って、さらに力をつけましょう。
時々、楽しいイベントもあります。

主に小学生が対象です。

いつ？　：毎週月曜日の16:00～17:20
どこで？：出来島のゆうせい薬局2階
「ゆうせいホール」

無料で参加できます。

たぶんかじゅく「アニモ」

Animo

ブラジル、ペルー、フィリピンルーツのこどもたちが、先生たちと、英語・数学・日本語の学習をがんばっています。勉強以外の相談もしています。

中学生が対象です。

いつ？　：毎週月曜日の17:30～19:00
どこで？：出来島のゆうせい薬局2階
「ゆうせいホール」

大阪市塾代助成のクーポン（一人の生徒に1か月最大1万円までの助成）を使うと月謝はゼロ円です。

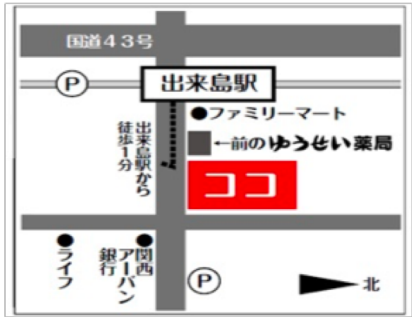
申込み・お問い合わせ

Phone：080-4562-6220（日本語）
毎週月曜日15:00～19:00、その他はメールで対応

E-Mail：nishiyic@gmail.com

facebook：Search ‘Nishiyodogawa’

Contact E-Mail →



場所
ゆうせいホール２階
（阪神出来島駅すぐ、ゆうせい薬局の２階）

時間：毎週月曜日
「きらきら」　16:00～17:20
「アニモ」　17:30～19:00

15時から19時まで子どもに関する相談も受け付けています。
ゆうせいホールへ直接来てください（対応は日本語）。

Global Classroom at Yodo Junior High School

Osaka City elementary and junior high schools have implemented measures and supported for teaching Japanese language to children with foreign roots and maintaining/strengthening their mother languages since fiscal year 2018.

The picture shows one of the scenes of Yodo junior high school's Global Classroom. Senpai (seniors) of this classroom who go to high school visited to support us.

This is a learning support class after school for students of Yodo junior high school. For further information, please contact your teachers.

Nishiyodogawa International Community

'Nishiyodogawa International Community' is a volunteer organization that foreigners and Japanese work collaboratively, to support foreign residents living in Nishiyodogawa Ward, Osaka City, especially children with roots in foreign countries.

Contact
URL http://tabunka.jp/nishiyodogawa-ic/
Facebook http://fb.me/Nishiyodogawa.IC →
*Enter fecebook → Search 'Nishiyodogawa'
E-mail nishiyic@gmail.com

Office
'Institute for Human Diversity Japan' is in charge of the secretariat.
http://diversityjapan.jp

子供の未来応援国民運動 Our activities are supported by the Children's Future Support Fund.

English

Let's study together!

Guide of learning support classes for children with roots in foreign countries living in Nishiyodogawa-ku

NIC 西淀川インターナショナルコミュニティー
Nishi-Yodogawa International Community

Learning support Class ‘Kirakira’

Kirakira

We do homework or study Japanese language. Bring your homework or what you want to study.

And, let's try other exercises at a classroom to learn more.
Sometimes there are enjoyable events.

This class is mainly for elementary school students.

When? : 16:00-17:20 on Mondays
Where? : Yusei Hall, Second floor of Yusei Pharmacy in Dekijima

There is no charge for joining this class.

Tabunka Juku ‘Animo’

Animo

Children with Brazilian, Peruvian or Filipino roots study English, mathematics and Japanese together with teachers. Consultation other than study is available, too.

This class is for junior high school students.

When? : 17:30-19:00 on Mondays
Where? : Yusei Hall, Second floor of Yusei Pharmacy in Dekijima

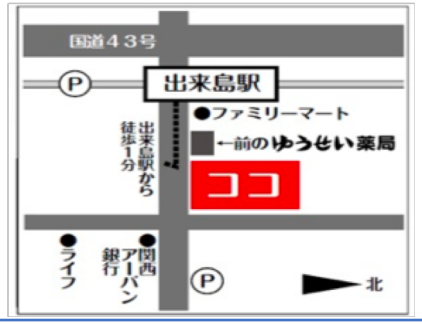
A monthly tuition fee is 0 Yen if using Osaka City After-school Activities Subsidy (Osaka shi-Jukudai-Josei) Card. This is because it provides up to 10,000 yen for a student per month.

Application/Inquiry

Phone : 080-4562-6220 (Japanese)
15:00-19:00 on Mondays. Email inquiries in other times.

E-Mail : nishiyic@gmail.com
facebook : Search ‘Nishiyodogawa’

Contact E-Mail →



Venue : Yusei Hall at 2F

(Nearby Hanshin Dekijima Station.
Second floor of Yusei Pharmacy)

16:00-19:00 on Mondays

‘Kirakira’	16:00～17:20
‘Animo’	17:30～19:00

We provide consultation on children from 15:00 to 19:00.
Please visit us at Yusei Hall. (only available in Japanese)

Escuela secundaria de YODO, clase de global

En las escuelas de la municipalidad de ciudad de Osaka, se ejecuta apoyo para los niños que tiene raiz a extranjero que se mejore sus estudio o el idioma japonés desde el año 2018.

Esta foto es de la clase de global. Esta vez han venido a ayudarnos los estudaintes de bachillerato.

Es una clase de soporte de estudio para los estudiantes de la escuela secundaria YODO. Pueden preguntar a los profesores de YODO los detalles.

Nishiyodogawa International Community

'Comunidad internacional de Nishiyodogawa' es una organizacion voluntaria que los extranjeros y los japoneses trabajan colaborativamente y para dar soportes a los residentes extranjeros en el distrito de Nishiyodogawa, Osaka especialmente a los niños que tienen raíz a extranjero.

Contacto
URL http://tabunka.jp/nishiyodogawa-ic/
Facebook http://fb.me/Nishiyodogawa.IC →
*Enter fecebook → Search 'Nishiyodogawa'
E-mail nishiyic@gmail.com

Officina
Instituto para diversidad humana de Japón está a cargo del secretaría
http://diversityjapan.jp

子供の未来応援国民運動 Ejecutamos con los apoyos del fondo "Futuro para niños"

Español

Vamos a estudiar juntos!

Guía para la clase de soporte para los niños que tiene raíces en esxtranjero en Nishiyodogawa

NIC 西淀川インターナショナルコミュニティー
Nishi-Yodogawa International Community

Clase de estudio soporte ‘Kira Kira’

Kirakira

Estudiamos juntos y apoyamos a hacer tareas o estudio de idioma japonés. Tráigan los que quieren estudair.

Además tenemos textos y ejercicios para estudiar más. a veces hacemos otros eventos.

Principalmente es para los de la escuela primarioa.

¿Cuándo? : Todos los lunes 16:00-17:20
¿Dónde? : en la sala de segundo piso de la farmacia YUSEI en Dekijima.

Se puede participar sin costo.

Tabunka Juku ‘Animo’

Animo

Hay niños que tiene raiz a Brasil, Perú y Filipinas. Están estudiando ingles, matemática y japonés con los profesores. También se hace consulta.

Es para los estudiantes de la escuela secundaria.

¿Cuándo? : Todos los lunes 17:30-19:00
¿Dónde? : en la sala de segundo piso de la farmacia YUSEI en Dekijima.

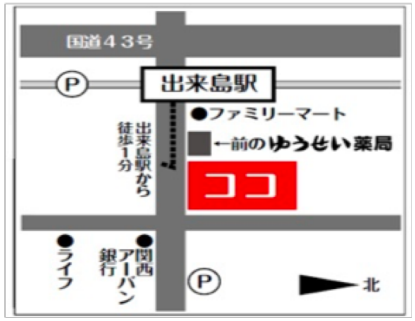
Si utilizan el cupón de soporte para estudiar de parte de la Municipalidad de Osaka, el costo mensual es cero. (Máximo hasta ¥10,000- por mes cada estudiante)

Contacto

Phone : 080-4562-6220
（solamente atendemos en japonés）
Todos los lunes 15:00-19:00, y se atiende por correo electrónico en otros horarios.

E-Mail : nishiyic@gmail.com
facebook : Search ‘Nishiyodogawa’

Contact E-Mail →



Salón YUSEI, segundo piso de Farmacia YUSEI

（segundo piso de Farmacia YUSEI, cerca de la estación de Dekijima. ）

Todos los lunes 16:00-19:00

‘Kirakira’ 16:00～17:20
‘Animo’ 17:30～19:00

Desde las 3 hasta las 7 de la tarde,recibimos cualquier consultas sobre sus hijos.
Vengan directamente al salón de YUSEI (solamente atendemos en japonés)

Sala de aula Global na Escola de Ensino médio da cidade de Osaka

Em escolas de ensino primário e médio na cidade de Osaka, são fornecidos apoio e medidas para promover o ensino da língua japonesa para crianças com raízes no exterior e para manter e melhorar sua língua nativa desde o ano de 2018.

Esta foto mostra um dos momentos da sala de aula Global da Escola de ensino médio Yodo. Alunos veteranos dessa classe que já estão no colegial vieram dar apoio as aulas.

Essa é uma sala de aula de apoio para estudantes da Escola de ensino médio de Yodo para aprendizagem após as aulas. Para maiores detalhes consulte os professores.

Nishiyodogawa International Community

A Comunidade Internacional de Nishiyodogawa é uma organização voluntária na qual estrangeiros e japoneses trabalham em conjunto para apoiar estrangeiros residentes que vivem no distrito de Nishiyodogawa da cidade de Osaka, especialmente crianças que têm raízes em países estrangeiros.

Contato
URL http://tabunka.jp/nishiyodogawa-ic/
Facebook http://fb.me/Nishiyodogawa.IC →
*Enter fecebook → Search 'Nishiyodogawa'
E-mail nishiyic@gmail.com

Escritório
O Instituto de Pesquisa para Diversidade Humana é responsável pelo secretariado.

http://diversityjapan.jp

子供の未来応援国民運動
Nossas atividades são apoiadas pelo Fundo de Apoio ao Futuro da Criança.

Português

Vamos estudar juntos!

Guia da sala de aula de apoio a aprendizagem para crianças que possuem raízes em países estrangeiros

NIC 西淀川インターナショナルコミュニティー
Nishi-Yodogawa International Community

Sala de aulas de apoio a aprendizagem ‘Kira Kira’

Kirakira

Faremos juntos os deveres escolares e ajudaremos no estudo da língua japonesa. Traga seu dever de casa ou qualquer outra material que queira estudar.

Além disso, poderão ser usados os livros de exercícios existentes na sala para reforçar ainda mais. Ocasionalmente temos outros eventos divertidos.

Principalmente para alunos do ensino primário.

Quando? Todas as segundas-feiras das 16h00 às 17h20
Onde? No salão YUSEI no segundo andar da farmácia Yusei em Dekijima .

Não há nenhum custo para participar desta classe.

Tabunka Juku ‘Animo’

Animo

Crianças com raízes no Brasil, Peru, Filipinas, estão se esforçando para estudar inglês, matemática e japonês com nossos professores. Atendemos também a outros tipos de consultas além de estudos.

Essa sala de aula é para alunos do ensino médio.

Quando? Todas as segundas-feiras das 17h30 às 19h00
Onde? No salão YUSEI no segundo andar da farmácia Yusei em Dekijima .

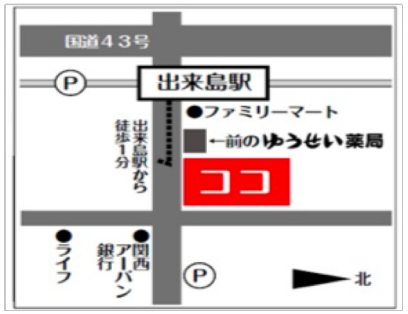
Se utilizar o cupom de apoio para estudos da cidade de Osaka (Osaka shi-Jukudai-Josei) o custo mensal é zero. (O valor máximo mensal que poderá ser utilizado por cada estudante é de ¥10,000).

Inscrições e informações

Phone : 080-4562-6220 （Japonês）
Todas as segundas-feiras das 15h às 19h, para informações em outros outros horários atenderemos por e-mail.

E-Mail : nishiyic@gmail.com
facebook : Search ‘Nishiyodogawa’

Contact E-Mail →



Salão YUSEI no segundo andar

（Próximo a estação Dekijima, no segundo andar da Farmácia Yusei.）

Todas as segundas-feiras das 16h às 19h

‘Kirakira’	16:00～17:20
‘Animo’	17:30～19:00

Atendemos também consultas sobre crianças das 15h às 19:00h.
(Venham diretamente ao salão Yusei (Só atendemos em japonês)

子供の未来応援基金第２回未来応援ネットワーク事業

「外国にルーツをもつ子供への学習支援地域ネットワーク事業」報告書

2019 年３月 31 日

発行
西淀川インターナショナルコミュニティー

事務局
大阪市淀川区西宮原 1-8-33 日宝新大阪第 2 ビル 802
ダイバーシティ研究所内
TEL：06-6152-5175　E-Mail：office@diversityjapan.jp

子供の未来応援基金の支援を受け実施しています